



パーティションの設定

- [パーティションの概要 \(1 ページ\)](#)
- [コーリングサーチスペースの概要 \(1 ページ\)](#)
- [サービスクラス \(2 ページ\)](#)
- [パーティションの設定タスクフロー \(3 ページ\)](#)
- [パーティションの連携動作と制限 \(6 ページ\)](#)

パーティションの概要

パーティションは、次のいずれかの論理グループです。

- ルートパターン
- ボイスメールのディレクトリ番号 (DN)
- 変換パターン
- 変換パターン
- ユニバーサルリソース識別子 (URI)
- ハントパイロット

パーティションによって組織、ロケーション、通話タイプを基にルートプランを論理サブセットに分割することで、コールルーティングが容易になります。

コーリングサーチスペースの概要

呼び出し先の検索スペース (CSS) は、パーティションの優先順位リストです。検索スペースの呼び出しによって、発信者がコールするために使用できるコール通知先が決定されます。コール先は、発信者の呼び出し用検索スペースで利用可能なパーティションに存在する必要があります。また、発信者はその通知先を呼び出すことができません。コール検索スペースは、ディレクトリ番号と、電話やゲートウェイなどのデバイスに割り当てることができます。

発信者の電話機と発信者のディレクトリ番号の両方に、検索スペースが割り当てられている場合、システムはその2つを連結して、発信者のためのCSSを提供します。

コール権限に従って、パーティションを使用し、検索スペースを呼び出すことによってシステムを編成できます。たとえば、次のようにすることができます。

- 一部の従業員が長距離通話に対応しないように制限する
- ロビー電話からCEOへの直接コールの発信者を制限する

サービスクラス

パーティションを使用して、検索スペース(CSS)を呼び出して、サービスのクラスを設定することができます。次の表に、PSTNアクセスを提供するサービスクラスのために作成できる、パーティションの例と、検索スペースの発信スペースを示します。

- 緊急コール
- ローカルコール
- ナショナルコール
- 国際通話

表 1: パーティションとコーリングサーチスペース

コーリングサーチスペース	ルートパーティション1	ルートパーティション2	ルートパーティション3	機能
Base_CSS	Base_PT	—	—	<ul style="list-style-type: none"> •緊急 •オンネット
LocalPSTN_CSS	PSTN_Local_PT	—	—	<ul style="list-style-type: none"> •緊急 •オンネット •ローカル
NationalPSTN_CSS	PSTN_Local_PT	PSTN_National_PT	—	<ul style="list-style-type: none"> •緊急 •オンネット •ローカル •国内

コーリングサーチスペース	ルートパーティション1	ルートパーティション2	ルートパーティション3	機能
InternationalPSTN_CSS	PSTN_Local_PT	PSTN_National_PT	PSTN_Intl_PT	<ul style="list-style-type: none"> • 緊急 • オンネット • ローカル • 国内 • 国際

デバイスは、Base_CSS のようなコール対象の検索スペースに自動的に登録されます。これにより、すべてのデバイスでオフネット番号と緊急オンネット番号の両方にダイヤルできるようになります。ローカル7桁またはローカル10桁、国内、および国際ダイヤリング機能を提供するには、ユーザデバイスプロファイルで残りのコーリングサーチスペースを電話番号に割り当てる必要があります。

パーティションの設定タスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	パーティションの設定 (3 ページ)	パーティションを設定して、到達可能性の特徴が類似したシステムリソースの論理グループを作成します。
ステップ2	コーリングサーチスペースの設定 (5 ページ)	コーリングサーチスペースは、コールを完了しようとする発信側デバイスが検索するパーティションを決定します。

パーティションの設定

パーティションを設定して、到達可能性の特徴が類似したシステムリソースの論理グループを作成します。次のいずれに対してもパーティションを作成できます。

- ルートパターン
- ボイスメールのディレクトリ番号 (DN)
- 変換パターン
- 変換パターン
- ユニバーサルリソース識別子 (URI)

- ハントパイロット

パーティションを作成することで、ルートプランが組織、場所、通話タイプに基づいた論理サブセットに分割されることになり、コールルーティングが容易になります。複数のパーティションを設定できます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] を選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいパーティションを作成します。

ステップ 3 [パーティション名、説明 (Partition Name, Description)] フィールドに、ルートプランに固有のパーティション名を入力します。

パーティション名には、英数字とスペースの他にハイフン (-) とアンダースコア (_) を使用できます。パーティション名に関するガイドラインについては、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 4 パーティション名の後にカンマ (,) を入力し、パーティションの説明を同じ行に入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を使用できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>)、角括弧 ([]) は使用できません。

説明を入力しなかった場合は、Cisco Unified Communications Manager が、このフィールドに自動的にパーティション名を入力します。

ステップ 5 複数のパーティションを作成するには、各パーティションエントリごとに 1 行を使います。

ステップ 6 [スケジュール (Time Schedule)] ドロップダウンリストから、このパーティションに関連付けるスケジュールを選択します。

スケジュールでは、パーティションが着信コールの受信に利用可能となる時間を指定します。[なし (None)] を選択した場合は、パーティションが常にアクティブになります。

ステップ 7 次のオプション ボタンのいずれかを選択して、[タイムゾーン (Time Zone)] を設定します。

- [発信側デバイス (Originating Device)] : このオプション ボタンを選択すると、発信側デバイスのタイムゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、パーティションが着信コールの受信に使用できるかどうか判断されます。
- [特定のタイムゾーン (Specific Time Zone)] : このオプション ボタンを選択した後、ドロップダウンリストからタイムゾーンを選択します。選択されたタイムゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、着信コールの受信にパーティションが使用できるかどうか判断されます。

ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。

パーティション名のガイドライン

コーリングサーチスペースのパーティションのリストは最大 1024 文字に制限されています。つまり、CSS内のパーティションの最大数は、パーティション名の長さによって異なります。次の表を使用して、パーティション名が固定長である場合のコーリングサーチスペースに追加できるパーティションの最大数を決定します。

表 2: パーティション名のガイドライン

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	340
3 文字	256
4 文字	204
5 文字	172
...	...
10 文字	92
15 文字	64

コーリングサーチスペースの設定

コーリングサーチスペースは、通常はデバイスに割り当てられるルートパーティションの番号付きリストです。コーリングサーチスペースでは、発信側デバイスが電話を終了しようとする際に検索できるパーティションが決定されます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 [名前 (Name)] フィールドに、名前を入力します。

各コーリングサーチスペース名がシステムに固有の名前であることを確認します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて含めることが可能です。

ステップ 4 [説明 (Description)] フィールドに、説明を入力します。

説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。

- ステップ 5** [使用可能なパーティション (Available Partitions)] ドロップダウンリストから、次の手順のいずれかを実施します。
- パーティションが 1 つの場合は、そのパーティションを選択します。
 - パーティションが複数ある場合は、Ctrl キーを押した状態で適切なパーティションを選択します。
- ステップ 6** ボックス間にある下矢印を選択し、[選択されたパーティション (Selected Partitions)] フィールドにパーティションを移動させます。
- ステップ 7** (任意) [選択されたパーティション (Selected Partitions)] ボックスの右側にある矢印キーを使用して、選択したパーティションの優先順位を変更します。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。

パーティションの連携動作と制限

表 3: パーティション制限

機能またはアクション	制限事項
パーティションの削除	<p>パーティションを削除する前に、次のいずれかのタスクを完了してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コーリングサーチスペース、デバイス、または削除するパーティションを使用しているその他の項目に異なるパーティションを割り当てる。 • コーリングサーチスペース、デバイス、または削除するパーティションを使用しているその他の項目を削除する。 <p>削除されたパーティションは取得できなくなるため、正しいパーティションを削除していることを慎重に確認してください。誤ってパーティションを削除した場合は、それを再構築する必要があります。</p>
変換パターン	<p>変換パターンにはディジット操作が含まれており、パーティションに割り当てられます。コールが変換パターンと一致する場合、Unified CM が変換を実行し、その変換パターンで指定されるコーリングサーチスペースを使用してコールを再ルーティングします。変換パターンの詳細については、「コールルーティングの設定」の章を参照してください。</p>
時間帯ルーティング	<p>パーティションが着信コールを受け入れ可能なスケジュールを設定します。ルーティングの時間設定の詳細については、「コールルーティングの設定」の章を参照してください。</p>

機能またはアクション	制限事項
論理パーティション設定	<p>任意：ゲートウェイおよびトランク アクセスを使用して内部 VoIP ネットワークを外部ネットワークから分割できます。ほとんどの導入環境では論理パーティションの使用は任意ですが、インドのように、内部ネットワークから外部へのコールをすべてローカル PSTN ゲートウェイに接続することが規制により必須となっている国では必須です。論理パーティショニングの設定の詳細については、『<i>Cisco Unified Communication Manager 機能設定ガイド</i>』の「論理パーティション分割の設定」のセクションを参照してください。</p>

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。